



問合せ先
第二管区海上保安本部海洋情報部
監理課長 狭間 徹
電話 022-363-0111(内線2510)

平成26年5月26日
第二管区海上保安本部

防災教育に協力します

～ 測量船「海洋」の一般公開6月21日 ～

多賀城高校の教員に対して防災知識の習得のために、測量船「海洋」の見学会を行います。
同時に地元の方々へも船内見学会を実施します。

測量船「海洋」(船長 佐藤俊三)は、海底地殻変動観測の途中で補給のために塩釜に入港します。

現在、多賀城高校では、平成28年4月に「災害科学科」を新設するにあたり、教員に対して災害への見識を広める活動を進めています。

第二管区海上保安本部としても、地域連携の一環として、これら活動への協力として測量船「海洋」の見学会を開催することとしました。

同時に地元の方々にも海上保安庁の取り組みを紹介する良い機会ですので、船内見学会を13時から開催します。

「制服試着コーナー」、「うみまるコーナー」もあります。

< 多賀城高校教員への見学会 >

日時：平成26年6月21日(土)12時30分～13時

代表者：多賀城高校 佐々木 教頭

見学会の取材を希望される社は、6月20日(金)13時までにご連絡願います。

連絡先：第二管区海上保安本部海洋情報部監理課

電話：022-363-0111(内線2511 担当 成田)

FAX：022-365-1341

測量船「海洋」の概要



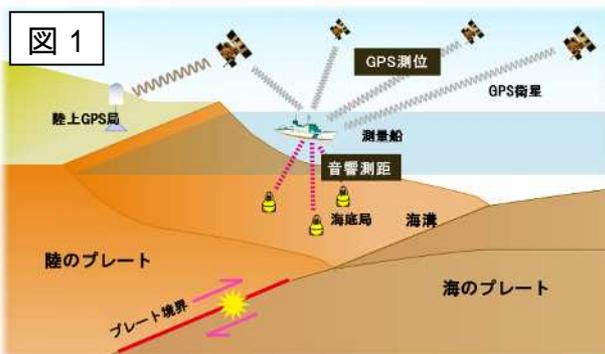
- 総トン数：550 トン
- 大きさ：全長 60.0m、巾 10.5m、深さ 5.0m
- 速 力：約 15 ノット
- 主要観測機器
 - ・マルチビーム測深機
 - ・超音波流速計
 - ・投下式水深水温計
 - ・海底地殻変動観測装置

海底地殻変動観測の概要

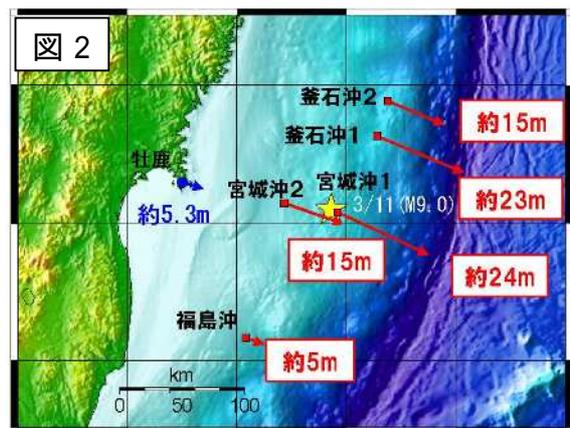
日本列島周辺では大陸プレートに海洋プレートが沈み込むことにより大陸プレートに歪みが発生し、歪みが限界を超える時に大規模な地震が発生（海溝型地震）すると考えられています。

海底地殻変動観測とは、海底に設置した基準点を測量船で精密に位置決定する観測です（図1）。この観測により日本海溝や南海トラフ沿いの陸側の海底の動きを調べて、プレート間の固着具合や歪みの蓄積具合を推定して、海溝型地震の監視に役立てています。

東北地方太平洋沖地震発生直後に行った観測により、海底が約24メートル動いたことがわかりました（図2）。



船の位置測定にはGPS観測（電波）を陸上と同時にすることにより、海底局の位置測定には音波を利用した距離測定により行っています。このような観測を繰り返し長期間実施することにより年間数センチメートルという海底の動きを捕らえています。



東北地方太平洋沖地震（M9.0）の発生前後に観測したデータにより、震源のほぼ真上に位置する宮城県沖の海底基準点が東南東に約24m（高さは約3m隆起）、その他の海底基準点でも23m～5mの移動が観測されました。